

第4回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会 検討資料



平成30年1月12日（金）
多摩市都市整備部道路交通課

議事1: 第3回委員会における意見とその対応

議事2: 市民アンケート・ワークショップの報告

議事3: 方針を実施させるための取り組み

- (1) 課題対応の基本的な考え方
- (2) 課題別の取り組み
- (3) 改善モデル区間の選定及び改善策
- (4) 実施体制

議事4: 方針を実現させるためのプログラム

- (1) 施策の枠組み
- (2) 実施の流れの考え方

議事5: 検討委員会の進め方・スケジュール

- (1) 委員会・WSの進め方・スケジュール
- (2) 素案とりまとめについて

3. 方針を実施させるための取り組み

(1) 課題対応の基本的な考え方

「多摩市街路樹よくなるプラン(街路編)に基づく管理

(多摩市道路交通課、平成20年9月)

ステップ1	信号機、標識、交差点の見やすさの確保、街路灯支障などの防犯上の支障を、根上がり等により道路を破損させている街路樹の撤去（+建築限界の確保）
ステップ2	公園や学校、団地の緑地と重複している街路樹の間伐
ステップ3	樹木間隔を広げるための間伐 →生育空間の確保、自然に近い緑豊かな樹形づくり
ステップ4	景観上で大切な街路樹や、枯れた街路樹を若木へ更新
ステップ5	既存の街路樹がふさわしくない箇所について、樹種変更

現状の取り組み

3. 方針を実施させるための取り組み

(1) 課題対応の基本的な考え方

- 【改定版の大方針】・安心・快適な歩行空間としての整備を図る
- ・持続可能なみどりを育てる
 - ・みんなで協力して多摩市の誇れるみどりを育てる

方針1: 通行に支障となる問題には迅速に対応
(安全確保・安心快適)
→現プランでのステップ1(着手済)

方針2: 今後を見据えた持続可能なみどりの形成
(持続的管理・景観形成)
→現プランでのステップ2以降

方針3:
多様な主体との連携による特色ある快適なみちの形成
(市民連携)
→現プランにはない新たな取り組み

特に検討が必要

3. 方針を実施させるための取り組み

(1) 課題対応の基本的な考え方

方針2: 今後を見据えた持続可能なみどりの形成 (持続的管理・景観形成)

【背景】

- ・テーマや目標像の実現に向けた**実施方針の検証**が必要である。
- ・生きものであり**改善策に対する木の反応をふまえた検証**が必要である。
- ・**不健全な状態の樹木の取り扱い**についても検討が必要である。

【改善モデル区間の設定】

- ・路線特性や街路樹の状態に応じた**対応が必要なことから、**
- ・**汎用性の高い改善モデル区間**を選出し、**改善モデル区間**での検討・試行の結果を踏まえ、各路線での対応内容を検討する

3. 方針を実施させるための取り組み

(1) 課題対応の基本的な考え方

今回のプラン改定では

ステップ1	信号機、標識、交差点の見やすさの確保、街路灯支障などの防犯上の支障木、根上がり等により道路を破損させている街路樹の撤去（+建築限界の確保）
ステップ2 (スリム化)	公園・学校・団地・法面緑地と二重にある箇所の間伐(撤去) うっそうとしている空間の植栽木の間伐撤去(主にペデ:清潔感UP)
ステップ3 (再生着手)	維持が困難になり危険性が増大している街路樹の更新・再生 大径木化した街路樹での植栽間隔を広げるための間伐
ステップ4	景観上重要な街路樹の更新・再生
ステップ5	ステップ4以外の街路樹の更新・再生

現状

改定後
除々に着手

3. 方針を実施させるための取り組み

(2) 課題別の取り組み

現状の街路樹を持続していくかどうかの見極めは？

「更新」

更新も含めた
検討が必要

越境や根上がり、樹勢の低下が回避不能、
危険性の増大

- 街路樹景観として維持できない
- 既存木の持続が困難である 場合

「管理」

更新するには
至らない

樹勢の維持・向上、樹形改善可能

- 街路樹景観が維持できる 場合

備考) 高所作業車が道路通行を妨げない範囲で剪定を行うには、樹高10~12m程度が限界

3. 方針を実施させるための取り組み

(2) 課題別の取り組み

	街路樹の状況(課題)	改善策(案)
更新	現状の樹種の継続が望まれる	更新 <ステップ 3,4,5>
	異なる樹種への変更が理解が得られる	樹種転換 <ステップ 3,4,5>
管理	信号機や標識の視認性が悪い(特に交差点)	支障木の撤去 <ステップ 1>
	道路曲線部のカーブの内側に街路樹により見通しが悪い	支障木の撤去 <ステップ 2>
	植栽間隔が狭く、街路樹同士の枝葉が接触する(過密な植栽)	間引き <ステップ 2,3>
	根上がり(歩行者がつまづきやすい、縁石の浮上がり)	根上り対策 <ステップ 1>
	害虫の苦情が多い(サクラ・モミジバフウ)	病虫害対策 <ステップ 1,2>
	公園・学校・団地及び法面緑地に隣接し、街路樹による景観形成効果が低い(特に被圧・樹勢低下)	支障木の撤去 <ステップ 2>
	建物への接触、日照時間の減少、落葉の発生等の改善要望がある	支障木の撤去 <ステップ 1,2>

3. 方針を実施させるための取り組み

(2) 課題別の取り組み

	更新による課題解決が必要な状況	転換・更新案
改善 必須	樹勢の悪い区間 (キノコの発生、樹冠の1/2以上枯死等)	→現状の生育条件や維持管理で持続可能な樹種
	樹勢の悪いサクラの区間(特にソメイヨシノ)	→植栽空間にあったサクラ
	顕著な根上り・歩道幅員狭区間(特に単独樹)	→大きくなならない樹種
	隣接部と重複植栽箇所	→高木の撤去及び低木地被の配置
管理 負荷 軽減	強剪定により樹形が崩れている区間	→剪定頻度少ない樹種
	中高層の建物が立ち並ぶ区間 (緑陰の必要性少、閉そく感が生じやすい)	→樹冠の小さい樹種
	落葉対策への要望が多い場所(沿道)	→小さな葉、まとまって落葉しない常緑広葉樹等
より よく	成長が早く比較的短命な樹種の区間	→維持管理を考慮した樹種
	無剪定状態では越境しやすい樹種の区間	→大きくなならない樹種

3. 方針を実施させるための取り組み

(3) 改善モデル区間の選定及び改善策

【改善モデル区間候補の抽出方法(案)】

- ・街路樹の状態のほか、多摩市の関連計画で位置付けされた地域や通学路など配慮が求められる区間、市民アンケートなどを踏まえ、総合的に選出

街路樹の状態(程度)を踏まえた分類

I : ただちに改善必要

II : 管理負荷が増大

III : さらによくする

① 立地特性別
タイプ区分

- ・危険木化につながる状態が多くみられ、典型的な樹種、景観形成効果が高い等

② 多摩市の関連計画
(シティセールス)

- ・多摩市の関連計画で位置付けされた地域等

③ 市民意見

- ・市民から多く要望のある路線を考慮

改善モデル区間候補の選出

※市民の関心が高い「上之根大通り」「メタセコイア通り」「乞田川サクラ」は別途整理

3. 方針を実施させるための取り組み

(3) 改善モデル区間の選定及び改善策

【街路樹の状態を踏まえた分類の考え方】

< 街路樹の状態 >

- ・ 衰退の兆候がある (枯れ木、キノコ)
- ・ 植栽間隔より樹冠幅が広い
- ・ 根元径が植樹幅の50%を超える
- ・ 根上がりがみられる
- ・ 隣接するみどりに被圧されている
- ・ 架線接触や建築限界の越境
- ・ 歩道有効幅員が2.0m未満
- ・ 低木植込が1.0m以上
- ・ 課題の多い樹種である
- ・ 樹高が10m以上 (街路)
- ・ 林冠が常緑広葉樹 (ペデ)
- ・ 中低木や生垣が複数並んでいる (ペデ)

< 課題の多い樹種 >

落葉樹：エンジュ、ケヤキ、ソメイヨシノ、シダレヤナギ、シンジュ、ニセアカシア

常緑樹：マテバシイ、ネズミモチ類

危険木
化高い

多

該
当
数

少

多

中

少

評価Ⅰ：
ただちに改善が必要

評価Ⅱ：
近い将来管理負荷
増大が見込まれる

評価Ⅲ：
現状でも大きな問題
はないが管理次第
でさらによくなる

3. 方針を実施させるための取り組み

(3) 改善モデル区間の選定及び改善策

【街路樹の状態を踏まえた改善策】 ※再掲

	街路樹の状態	改善策(案)
更新	現状の樹種の継続が望まれる	更新 <ステップ 3,4,5>
	異なる樹種への変更が理解が得られる	樹種転換 <ステップ 3,4,5>
管理	信号機や標識の視認性が悪い (特に交差点)	支障木の撤去 <ステップ 1>
	道路曲線部のカーブの内側に街路樹により見通しが悪い	支障木の撤去 <ステップ 2>
	植栽間隔が狭く、街路樹同士の枝葉が接触する (過密な植栽)	間引き <ステップ 2,3>
	根上がり (歩行者がつまづきやすい、縁石の浮上がり)	根上り対策 <ステップ 1>
	害虫の苦情が多い (サクラ・モミジバフウ)	病虫害対策 <ステップ 1,2>
	公園・学校・団地及び法面緑地に隣接し、街路樹による景観形成効果が低い (特に被圧・樹勢低下)	支障木の撤去 <ステップ 2>
	建物への接触、日照時間の減少、落葉の発生等の改善要望がある	支障木の撤去 <ステップ 1,2>

3. 方針を実施させるための取り組み

(3) 改善モデル区間の選定及び改善策

【改善モデル区間の選出-1】

タイプ	路線名	評価	ステップ2以降の改善内容
1-1	1-2号幹線(サクラ)	II	ステップ3: 幹の根元が柵からあふれる状態でかつ劣勢の木を対象とした間引き ステップ4: 更新
1-2	4-5号幹線(イチヨウ)	II	ステップ2: 公園と隣接箇所の撤去、標識支障木剪定 ステップ3: 幹の根元が柵からあふれる状態でかつ劣勢の木を対象とした間引き ステップ5: 更新
	2-2号幹線 (トチノキ) 重点⑤愛宕北住区	II	ステップ3: 樹高が高い側の間引き・更新 ステップ5: 更新
2-1	3-198号線(サクラ)	II	ステップ2: 隣接する緑による被圧箇所撤去 ステップ3: 劣勢木の間引き ステップ4: 更新
	4-49号線(ケヤキ)	II	ステップ3: 植栽空間整備 ステップ4: 更新
	5-74号線(クスノキ) 重点⑦多摩センター	II	ステップ2: 緑と隣接する箇所の撤去 ステップ3: 劣勢木から間引き
	5-109号線(エンジュ)	I	ステップ3: 樹種転換、寄植見直し

3. 方針を実施させるための取り組み

(3) 改善モデル区間の選定及び改善策

【改善モデル区間の選出-2】

タイプ	路線名	評価	ステップ2以降の改善内容
2-3	1-173号線 (サクラ)	II	ステップ3: 幹の根元が柵からあふれる状態でかつ劣勢の木を対象とした間引き ステップ4: 更新
4-1	4-11号歩線 (シラカシ)	II	ステップ2: 常緑樹の間引き・撤去、生垣の撤去 ステップ3: 単独柵の撤去・更新、植栽木の整理
4-2	5-39号歩線 (シラカシ)	II	ステップ2: 常緑樹の撤去・間引き、中央の植樹帯の整理 ステップ3: 学校付近を中心とした植栽配置の見直し
4-4	2-3号歩線 (ニセアカシア)	II	ステップ2: 樹木と隣接する箇所重複整理
4-2	6-11号歩線 (シラカシ・ ハリエンジュ)	III	ステップ2: 中央の植樹帯の整理

注: 以下の路線は別個整理

・5-2号幹線(モミジバフウ)重点⑥上之根大通り ・6-1号線(メタセコイア)重点⑧メタセコイア通り ・乞田川沿いサクラ
タイプ区分について[タイプ1(①)3(③): 街路部、タイプ4(④): ペデ部]

①-1: 住居・オフィス隣接区間、①-2: 長大法面隣接区間、

②-1: 団地(高層)付近、②-2: 団地(戸建)付近、②-3 一般-団地付近短距離路線、②-4: 既存地区

③: 乞田川沿い

④-1: 団地間移動(幹線的長距離)、④-2: 団地間移動(幹線的短距離)、④-3: 公園・里山移動、④-4: 交差部広場

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部: ①-1 1-2号幹線

評価Ⅱ

樹種: サクラ
 幹枝: 衰退
 根元: 根元径/植樹幅 > 0.5
 根上りにより舗装浮上

【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
維持が困難になる可能性大

ステップ3: 柵いっぱい
の幹かつ
劣勢木の間引き

ステップ4: 更新



タイプ区分: ①-1 1-2号幹線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭	アドプト団体数	初版重点管理路線
28	50		○				○	○		○				

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部：①-2 4-5号幹線

評価Ⅱ

樹種：イチョウ
 幹枝：樹冠＞間隔
 根元：根元径/植樹幅＞0.5
 根上りにより舗装浮上

【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大

ステップ2：公園隣接部の撤去、標識
 支障木剪定

ステップ3：柵いっぱいの中かつ
 劣勢木の間引き

ステップ5：更新



タイプ区分：①-2 4-5号幹線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
88	88	○			○		○	○						

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部：1-② 2-2号幹線

評価Ⅱ

樹種：トチノキ
 幹枝：樹冠＞間隔
 根元：根元径/植樹幅＞0.5
 根上りにより舗装浮上



【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大



ステップ3：樹高が高い側の間引き・
 更新

ステップ5：更新



タイプ区分：1-② 2-2号幹線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
91	104	○			○		○	○		○○				⑤愛宕北住区

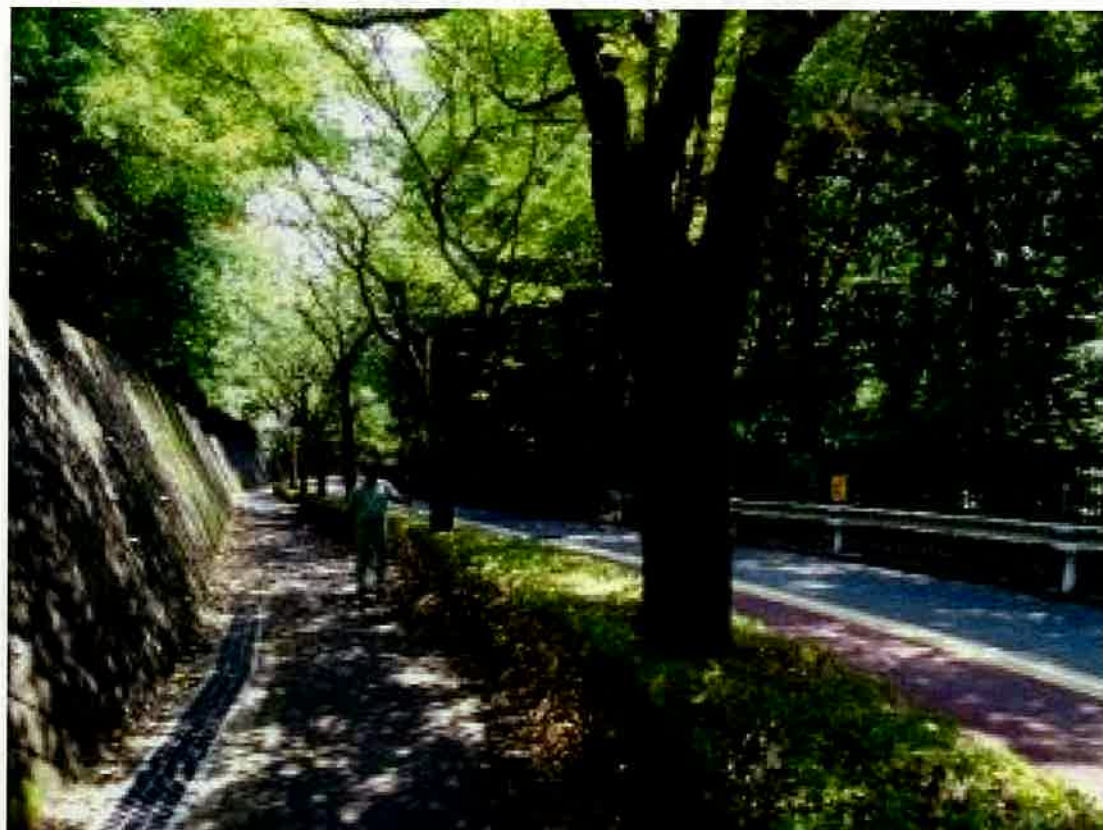
赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部: ②-1 3-198号線

評価Ⅱ

樹種: サクラ
 幹枝: 枯れやキノコなど衰退
 樹冠 > 間隔
 根元: 根元径/植樹幅 > 0.5
 根上りにより舗装浮上



【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
維持が困難になる可能性大

ステップ2: 隣接緑の被圧箇所撤去

ステップ3: 劣勢木の間引き

ステップ4: 更新

タイプ区分: ②-1 3-198号線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
37	37	○	○		○	△	○			○				

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部: ②-1 4-49号線

評価Ⅱ

樹種: ケヤキ
 幹枝: 衰退、樹冠 > 間隔
 根元: 根元径/植樹幅 > 0.5
 根上りにより舗装浮上



【評価Ⅱ】
 今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大



ステップ3: 植栽空間整備

ステップ4: 更新



タイプ区分: ②-1 4-49号線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
38	38	○	○		○		○	○	△	○○				

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部：②-1 5-74号線

評価Ⅱ

樹種：クスノキ
 幹枝：衰退、樹冠＞間隔
 根元：根元径/植樹幅＞0.5



【評価Ⅱ】
 今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大



ステップ2：緑と隣接する箇所の撤去
 ステップ3：劣勢木から間引き
 ステップ5：更新



タイプ区分：②-1 5-74号線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭	アドプト団体数	初版重点管理路線
47	47		○		○		○			○○			1	⑦多摩センター駅周辺

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部：②-1 5-109号線

評価Ⅰ

樹種：エンジュ
 幹枝：枯れやキノコなど衰退
 樹冠＞間隔
 根元：歩道狭い、寄植が狭い
 印象を強めている



【評価Ⅰ】
 枯れ木や劣勢木の危険木化
 の可能性が高い

ステップ3: 更新(樹種転換)
 寄植見直し

タイプ区分：②-1 5-109号線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
47	58	○	○		○				△	○				

赤字：危険木化の指標となる項目